

## 生化学的検査(血清蛋白, 窒素化合物)

項目コード	検査項目	検体・必要量(mL)と保存	容器	検査方法	基準値	実施料区分	備考	報告日数
<b>血清蛋白</b>								
1001	血清総蛋白(TP)	血清 0.5 冷	2	比色法(Biuret法)	6.5~8.3 g/dL	11 生 I		1~3
1006	アルブミン(ALB)	血清 0.5 冷	2	比色法(BCP改良法)	3.7~5.0 g/dL	11 生 I		
1005	血清蛋白分画	血清 0.3 冷	2	電気泳動法(セルロース・アセテート膜)	ALB : 60.8~71.8 % α <sub>1</sub> : 1.7~2.9 % α <sub>2</sub> : 5.7~9.5 % β : 7.2~11.1 % γ : 10.2~20.4 % A/G比 : 1.55~2.55	18 生 I	A	2~3
3207	β <sub>2</sub> -ミクログロブリン(β <sub>2</sub> -MG)	血清 0.5 冷	2	ラテックス凝集法	0.9~2.0 mg/L	98 免	A	3~4
3208		尿 1.0 冷	1		289 μg/L 以下	98 免	尿のpHが5.5以下では不安定で容易に分解されます pH5.5~7.5であることを確認の上、冷蔵にて保存してください pH調整ができない場合は、直ちに凍結にて保存してください pH5.5以下の時は希アンモニア水又は希アンモニア水又は希苛性ソーダ溶液でpH6~8に調整してください	A
3206	フェリチン定量	血清 0.5 冷	2	ラテックス凝集法	M: 21.0~282.0 ng/mL F: 5.0~157.0 ng/mL	102 生 I	A	3~4
<b>窒素化合物</b>								
1200	尿酸(UA)	血清 0.5 冷	2	酵素法	7.0 mg/dL 以下	11 生 I	24時間蓄尿し、全尿量を記録後必要量を提出してください	1~3
1250		尿 2.0 冷	1		0.4~1.0 g/day			
1201	尿素窒素(BUN, UN)	血清 0.5 冷	2	酵素法(ウレアーゼUV法)	7~20 mg/dL	11 生 I	緊急報告値 80mg/dL以上	1~3
1251		尿 2.0 冷	1		7~14 g/day		24時間蓄尿し、全尿量を記録後必要量を提出してください	
1202	クレアチニン(CRE)	血清 0.5 冷	2	酵素法	M: 0.5~1.1 mg/dL F: 0.4~0.8 mg/dL	11 生 I	緊急報告値 10mg/dL以上	1~3
1252		尿 2.0 冷	1		1.0~1.5 g/day		24時間蓄尿し、全尿量を記録後必要量を提出してください	
1203	クレアチン	血清 0.5 冷	2	酵素法	0.2~1.0 mg/dL	11 生 I	A	3~4
1253		尿 1.0 冷	1		M: 170 mg/day 以下 F: 290 mg/day 以下		24時間蓄尿し、全尿量を記録後必要量を提出してください	
1205	アンモニア(NH <sub>3</sub> )	除蛋白上清液 3.0 凍※	11 ↓ 1	比色法(奥田・藤井変法)	30~86 μg/dL	50 生 I	アンモニア専用容器に正確に血液1.0mlを入れ、激しく転倒混和後遠心分離し上清3mlを凍結保存してください 上清分取時に浮遊物が混入しないようご注意ください	A 3~4
5645	尿中アルブミン-随時尿(尿中マイクロアルブミン-Cre補正)	尿 1.0 冷	1	免疫比濁法	18.0 mg/g・cr 以下	99 尿	A	3~4
1220	プロコラーゲンⅢペプチド(P-Ⅲ-P)	血清 0.3 冷	2	IRMA法(RIA・固相法)	1.0 U/mL 以下	136 生 I	プロリヒドロキシラーゼまたはP-Ⅲ-Pと併せて実施した場合には一方の点数のみ算定します	A 4~6

※ 前日までにお問合わせください。

67ページ参照

## 生化学的検査(窒素化合物, 脂質・関連物質)

項目コード	検査項目	検体・必要量(mL)と保存	容器	検査方法	基準値	実施料区分	備考	報告日数
<b>窒素化合物</b>								
1221	IV型コラーゲン・7S/CLEIA	血清 0.5 冷	2	CLEIA法	4.4 ng/mL 以下	148 生 I	IV型コラーゲン・7S、IV型コラーゲンはいずれか一方を算定します	3~4
1218	IV型コラーゲン	血清 0.5 冷	2	ラテックス凝集法	140 ng/mL 以下	131 生 I		A
1211	アミノ酸分析	血漿 0.9 凍※	7 ↓ 1	HPLC法	P.21参照	1種につき 279 5種以上 1107 生 II		5~12
5742		髄液 0.9 凍※	1					
1261		尿 3.0 凍※	1					
<b>脂質・関連物質</b>								
1040	総コレステロール(T-CHO)	血清 0.5 冷	2	酵素法	130~220 mg/dL	17 生 I	総コレステロール、HDL-コレステロール及びLDL-コレステロールの3項目を測定した場合は主たる2項目に限り算定します	1~3
1042	エステル型コレステロール(E-CHO)	血清 0.5 冷	2	酵素法・計算	80~170 mg/dL			
1043	エステル比	血清 0.5 冷	2	酵素法・計算	65~80 %			
1041	遊離コレステロール(F-CHO)	血清 0.5 冷	2	酵素法	25~60 mg/dL	11 生 I	A	2~3
1051	HDL-コレステロール	血清 0.5 冷	2	酵素法(直接法)	M: 40~80 mg/dL F: 40~90 mg/dL	17 生 I		1~3
1054	LDL-コレステロール	血清 0.5 冷	2	酵素法	70~139 mg/dL	18 生 I		1~3
1046	中性脂肪(TG)	血清 0.5 冷	2	酵素法	50~150 mg/dL	11 生 I		1~3
1047	遊離脂肪酸(NEFA・FFA)	血清 0.5 冷	2	酵素法	0.10~0.81 mEq/L	59 生 I	A	2~3
1048	リン脂質(PL)	血清 0.5 冷	2	酵素法	150~250 mg/dL	15 生 I	A	2~3
1049	総脂質(TL)	血清 0.5 冷	2	酵素法・計算	355~710 mg/dL		TL=1.5037×TC+PL+TG	1~3
1055	総胆汁酸(TBA)	血清 0.5 冷	2	酵素法 酵素サイクリ	(食後4時間以上経過) 14.4 μmol/L 以下	47 生 I	A	2~3

※ 前日までにお問合わせください。

67ページ参照

## 生化学的検査(脂質・関連物質)

項目コード	検査項目	検体・必要量(mL)と保存	容器	検査方法	基準値	実施料区分	備考	報告日数
<b>脂質・関連物質</b>								
1060	リポ蛋白分画泳動	血清 0.3 冷	2	電気泳動法 (アガロース膜)	M α 27~51% Preβ 8~24% β 35~56% F 33~53% 7~21% 34~52%	49 生 I	空腹時に採血し血清分離後 上清を冷蔵し提出してください <b>凍結不可</b>	3~5 A
1066	リポ蛋白(a) LP(a)	血清 0.5 冷	2	免疫比濁法 (TIA法)	40.0 mg/dL 以下	107 生 I	3ヶ月に1回を限度として算定 します	3~4 A
1052	コレステロール分画	血清 0.3 冷	2	電気泳動法 (アガロース膜)	M HDL-C 17~43% VLDL-C 2~18% LDL-C 51~77% F 22~51% 1~14% 45~72%	57 生 I	空腹時に採血し血清分離後 上清を冷蔵し提出してください <b>凍結不可</b>	3~5
1069	リポ蛋白トリグリセライド分画定量	血清 1.4 冷	2	超遠心法 酵素法	T-TG 40~170 VLDL-TG 0~151.7 LDL-TG 8.8~34.8 HDL-TG 5.8~31.8 mg/dL			5~15
1070	リポ蛋白リン脂質分画定量	血清 1.4 冷	2	超遠心法 酵素法	T-PLi 150~250 VLDL-PLi 1.1~59.5 LDL-PLi 43.3~111.3 HDL-PLi 62.5~156.5 mg/dL			5~15 A
1071	アポリポ蛋白A-I	血清 0.5 一種につき 0.3 冷	2	免疫比濁法 (TIA法)	M: 119~155 mg/dL F: 126~165 mg/dL	1項目 31 2項目 62 3項目以上 の場合 94 生 I		
1072	アポリポ蛋白A-II			免疫比濁法 (TIA法)	M: 25.9~35.7 mg/dL F: 24.6~33.3 mg/dL		3~4	
1073	アポリポ蛋白B			免疫比濁法 (TIA法)	M: 73~109 mg/dL F: 66~101 mg/dL		3~4	
1074	アポリポ蛋白C-II			免疫比濁法 (TIA法)	M: 1.8~4.6 mg/dL F: 1.5~3.8 mg/dL		3~4	
1075	アポリポ蛋白C-III			免疫比濁法 (TIA法)	M: 5.8~10.0 mg/dL F: 5.4~9.0 mg/dL		3~4	
1076	アポリポ蛋白E			免疫比濁法 (TIA法)	M: 2.7~4.3 mg/dL F: 2.8~4.6 mg/dL		3~4 A	
1091	RLP-コレステロール (RLP-C, レムナント様リポ 蛋白コレステロール)	血清 0.5 冷	2	酵素法	7.5 mg/dL 以下	174 生 I	糖尿病、冠動脈疾患等の動 脈硬化高リスク症例におい ては、空腹時5.2mg/dL以上をハ イリスクとします <b>凍結不可</b>	3~4 A

指標	基準値	診断
LDLコレステロール	≥140mg/dl	高LDLコレステロール血症
	120-139mg/dl	境界域高LDLコレステロール血症
HDLコレステロール	<40 mg/dl	低HDLコレステロール血症
トリグリセライド	≥150mg/dl	高トリグリセライド血症
Non-HDLコレステロール	≥170mg/dl	高non-HDLコレステロール血症
	150-169mg/dl	境界域高non-HDLコレステロール血症

(動脈硬化性疾患予防ガイドライン2017年版より)

## 生化学的検査(酵素)

項目コード	検査項目	検体・必要量(mL)と保存	容器	検査方法	基準値	実施料区分	備考	報告日数
<b>酵素</b>								
1101	AST (GOT)	血清 0.5 冷	2	JSCC標準化対応法	8~40 U/L	17 生 I	緊急報告値 900 U/l 以上	1~3
1102	ALT (GPT)	血清 0.5 冷	2	JSCC標準化対応法	6~42 U/L	17 生 I		
1121	γ-GTP (γ-グルタミルトランスペプチダーゼ)	血清 0.5 冷	2	JSCC標準化対応法	M: 16~86 U/L F: 12~48 U/L	11 生 I		1~3
1115	アデノシンデアミナーゼ (ADA)	血清 0.5 冷	2	酵素法	4.8~23.1 U/L	32 生 I	溶血は高値の影響があります (胸水参考値) 結核性胸膜炎症例 50.4~154.6 U/L 肺癌症例 10.9~36.1 U/L 心不全等上記以外症例 3.2~8.8 U/L A	3~4
		胸水 0.5 冷	1		U/L			
1116	グアナーゼ	血清 0.5 冷	2	酵素法	0.4~1.1 U/L (37°C)	35 生 I	A	3~4
1104	CPK(CK) クレアチンキナーゼ	血清 0.5 凍※	2 ↓ 1	JSCC標準化対応法	M: 30~195 U/L F: 30~170 U/L	11 生 I	緊急報告値 1,000 U/L 以上	1~3
1326	CK-MB/CLIA	血清 0.6 凍※	2 ↓ 1	CLIA法	7.5 ng/mL 以下	90 生 I	A	3~4
1328	ミオシン軽鎖1	血清 0.3 凍※	2 ↓ 1	EIA法	2.5 ng/mL 以下	184 生 I	A	3~5
1100	ALP (アルカリフォスファターゼ)	血清 0.5 冷	2	IFCC法	38~113 U/L	11 生 I		3~4
2480	PSA-LA	血清 0.5 冷	2	ラテックス凝集法	4.00 ng/mL 以下	121 生 II		2~3
3496	高感度PSA (前立腺特異抗原)	血清 0.5 冷	2	CLIA法	4.000 ng/mL 以下	121 生 II	A	3~6
1120	コリンエステラーゼ (CH-E)	血清 0.5 冷	2	JSCC標準化対応法	168~470 U/L	11 生 I		1~3
1162	トリプシン	血清 0.4 冷	2	ラテックス凝集比濁法	210~570 ng/mL	189 生 I	A	3~4
1160	エラスターゼ-1	血清 0.5 冷	2	ラテックス凝集法	300 ng/dL 以下	120 生 II	A	3~4
1150	リパーゼ	血清 0.5 冷	2	酵素法	17~57 U/L (37°C)	24 生 I	チャート報告書 A	2~3
1151	膵ホスホリパーゼA <sub>2</sub> (膵PLA <sub>2</sub> )	血清 0.3 冷	2	RIA・固相法	130~400 ng/dL	204 生 I	長期間保存する場合は凍結保存してください A	3~4

※ 前日までにお問合わせください。

67、68ページ参照

## 生化学的検査(酵素)

項目コード	検査項目	検体・必要量(mL)と保存	容器	検査方法	基準値	実施料区分	備考	報告日数
<b>酵素</b>								
1166	リポ蛋白リパーゼ(LPL)	血漿 0.5 凍※	9 ↓ 1	EIA法	164~284 ng/mL	219 生 I	早朝空腹時、ヘパリンを体重1Kg当り30単位で静注し、15分後に採血し、4℃で遠心分離後、上清血漿を凍結保存にて提出してください EDTA血漿、クエン酸血漿は使用できません 高トリグリセライド血症及びLPL欠損症が疑われる場合の鑑別のために測定した場合のみ算定します また、ヘパリン負荷が行われた場合、投与したヘパリンは区分「D500」の薬剤として算定できませんが、注射料は算定できません A	3~9
1155	アミラーゼ(AMY)	血清 0.5 冷	2	JSCC標準化対応法	37~125 U/L	11 生 I		1~3
1156		尿 5.0 冷	1		2時間尿: 7.5~51.8 U/hr 随時尿: 80~702 U/L			
1351	P型アミラーゼ(アミラーゼアイソザイム(膵型))	血清 0.5 冷	2	免疫阻害法	17~50 U/L	48 生 I	A	3~4
1171	尿中NAG(N-アセチル-β-D-グルコサミニダーゼ)	尿 1.0 冷	1	比色法(合成基質法)	11.5 U/L 以下	41 尿	PH8.0以上のアルカリ尿およびPH4.0以下の酸性尿の場合、測定値が低下する場合があります A	3~4
1122	LAP(ロイシンアミノペプチダーゼ)	血清 0.5 冷	2	比色法	30~81 U/L	11 生 I		1~3
1176	ACE(アンギオテンシン1転換酵素)	血清 0.5 冷	2	比色法(笠原法)	7.0~25.0 U/L	136 生 I	血漿不可	A 3~4
1180	リゾチーム(ムラミダーゼ)	血清 0.3 冷	2	比濁法	5.0~10.0 μg/mL			3~4
1181		尿 1.0 冷	1		0.0 μg/mL	A	3~6	
1107	アルドラーゼ(ALD)	血清 0.5 冷	2	UV法	2.7~7.5 U/L (37℃)	11 生 I	A	2~3
1103	LDH(乳酸脱水素酵素)	血清 0.5 冷	2	IFCC法	80~200 U/L	11 生 I	緊急報告値 1,000 U/L 以上 溶血・全血放置検体では高値となります	3~4

※ 前日までにお問合わせください。

67、68ページ参照

## 生化学的検査(アイソザイム, 糖質・関連物質)

項目コード	検査項目	検体・必要量(mL)と保存	容器	検査方法	基準値	実施料区分	備考	報告日数	
<b>アイソザイム</b>									
1320	CPK(CK)アイソザイム	血清 0.3 凍※	2 ↓ 1	電気泳動法 (アガロース膜)	BB(CK1) 0~2 % ALB 0~9 % MB(CK2) 0~6 % MM(CK3) 87~98 %	55 生 I	A	3~5	
1300	ALPアイソザイム	血清 0.3 冷	2	電気泳動法 (アガロース膜)	ALP <sub>1</sub> 0.0~5.3 % ALP <sub>2</sub> 36.6~69.2 % ALP <sub>3</sub> 25.2~54.2 % ALP <sub>4</sub> 0.0 % ALP <sub>5</sub> 0.0~18.1 % ALP <sub>6</sub> 0.0 %	48 生 I	A	3~5	
1350	アミラーゼアイソザイム (AMY)	血清 0.3 冷	2	電気泳動法 (アガロース膜)	P% 15.7~64.0 S% 36.0~84.3 P/S比 0.19~1.79	48 生 I	A	3~5	
1360		尿 1.0 冷	1		P% 38.7~82.3 S% 17.7~61.3 P/S比 0.63~4.65				
1310	LDHアイソザイム	血清 0.3 室	2	電気泳動法 (アガロース膜)	LDH <sub>1</sub> 20.0~31.0 % LDH <sub>2</sub> 28.8~37.0 % LDH <sub>3</sub> 21.5~27.6 % LDH <sub>4</sub> 6.3~12.4 % LDH <sub>5</sub> 5.4~13.2 %	48 生 I	血液凝固後できるだけ速やかに血清分離してください 凍結は厳禁(LD <sub>4</sub> 、LD <sub>5</sub> の損失防止) 又、低温失活の影響を受けますので4℃以下の保存は避けてください	A	3~5
<b>糖質・関連物質</b>									
1800	血糖(空腹時) (FBS)	血液 2.0 冷	4	電極法 (グルコース・オキシダーゼ法)	70~110 mg/dL (空腹時)	11 生 I	緊急報告値 50 mg/dL 以下、500 mg/dL 以上 フツ化ソーダ入り容器に採血してください	1~3	
1897	HbA1c(NGSP)	血液 2.0 冷	4	HPLC法	4.6~6.2 %	49 血		2~3	
1893	胎児性ヘモグロビン (HbF)				0.9 % 以下	60 血			2~3
1894	1,5-AG (1,5-アンヒドログルシトール)	血清 0.5 冷	2	比色法	14.0 μg/mL 以上	80 生 I	A	3~4	
1896	グリコアルブミン (GA)	血清 0.5 冷	2	酵素法	11.6~16.4 %	55 生 I	A	3~4	
		血漿 0.5 冷	7 ↓ 1						
1193	ヒアルロン酸	血清 0.5 冷	2	ラテックス凝集法	50.0 ng/mL 以下	179 生 I	肝硬変の判定基準 130 ng/mL以上 (50~130ng/mLの場合肝の線維化の疑いあり) 慢性肝炎の患者に対して慢性肝炎の経過観察及び肝生検の適応の確認を行う場合に算定できます	A	3~4

※ 前日までにお問合わせください。

67ページ参照

グリコヘモグロビンA1c、グリコアルブミンまたは1,5-AGのうちいずれかを同一月中に2回以上実施した場合は、主たるもののみ算定します。(月1回)

## 生化学的検査(糖質・関連物質, 生体色素・関連物質)

項目コード	検査項目	検体・必要量 (mL)と保存	容器	検査方法	基準値	実施料区分	備考	報告日数
<b>糖質・関連物質</b>								
1790	ピルビン酸	除蛋白上清液 0.5 凍※	13 ↓ 1	酵素法	0.3~0.9 mg/dL	47 生 I	氷冷1.0N過塩素酸1.0mLに血液1.0mLを入れ、混和後15~60分静置、遠心分離し上清を凍結保存してください	3~4
1795	乳酸	除蛋白上清液 0.5 凍※	13 ↓ 1	酵素法	4.2~17.0 mg/dL	47 生 I		A
1191	ケトン体分画	血清 0.5 (静脈血) 凍※	2 ↓ 1	酵素サイクリング法	総ケトン体 131 μmol/L 以下 アセト酢酸 55 μmol/L 以下 3-ヒドロキシ酪酸 85 μmol/L 以下	59 生 I	血清分離後速やかに凍結してください 総ケトン体にはアセトンは含まれません	3~4
1015	シアル酸 (N-アセチルノイラミン酸)	血清 0.5 冷	2	UV rate法	40~71 mg/dL		A	2~3
<b>生体色素・関連物質</b>								
1031	総ビリルビン (T-BIL)	血清 0.5 冷	2	酵素法	0.2~1.0 mg/dL	11 生 I	緊急報告値 12mg/dL 以上	1~3
1032	直接ビリルビン (D-BIL)	血清 0.5 冷	2	酵素法	0~0.4 mg/dL	11 生 I		1~3
1901	コプロポルフィリン定量	血液 1.5 (ヘパリン加血) 冷	9	HPLC法	(赤血球)1 以下 μg/dL RBC	210 生 I	遮光保存	A 4~10
1903	ウロポルフィリン定量	血液 1.5 (ヘパリン加血) 冷	9	HPLC法	(赤血球)1 以下 μg/dL RBC		遮光保存	A 4~10
1904	プロトポルフィリン定量	血液 1.5 (ヘパリン加血) 冷	9	HPLC法	(赤血球)30~86 μg/dL RBC	272 生 I	遮光保存	A 4~10
1910	尿中コプロポルフィリン定性	尿 6.0 冷	1	比色法 (Brugsh-Fisher法)	(-)		遮光保存	A 3~4
1911	尿中コプロポルフィリン定量	尿 3.0 冷	1	HPLC法	8~168 μg/g・Creatinine	131 尿	遮光保存	A 5~11
1913	尿中ウロポルフィリン定量	尿 3.0 冷	1	HPLC法	2~25 μg/g・Creatinine	105 尿	遮光保存	A 5~11
1915	ポルフォビリノーゲン定量(尿中)	尿 3.0 凍※	1	比色法 (Mauzerall-Granick法)	2.0 mg/day 以下	186 尿	遮光保存 24時間蓄尿し(冷暗所保存)、全尿量を記録後必要量を提出してください	A 6~12
1940	ミオグロビン定量/CLEIA	血清 0.5 冷	2	CLEIA法	M: 17.4~105.7 ng/mL F: 14.3~65.8 ng/mL	132 生 I	A	3~4

※ 前日までにしてお問合わせください。

67ページ参照

## 生化学的検査(電解質・無機質)

項目コード	検査項目	検体・必要量 (mL)と保存	容器	検査方法	基準値	実施料区分	備考	報告日数
<b>電解質・無機質</b>								
1230	ナトリウム (Na)	血清 0.5 ※1 冷	2	電極法	134~147 mEq/L	11 生 I	全血のまま冷蔵保存は厳禁 ※1 採血後速やかに血清分離し、冷蔵保存 分離不可能な場合は室温静置してください	1~3
1270		尿 2.0 冷	1	電極法	4.0~8.0 g/day			
1231	カリウム (K)	血清 0.5 ※1 冷	2	電極法	3.5~5.2 mEq/L	11 生 I	緊急報告値(血清) Na 130mEq/L以下,155以上 K 3.0mEq/L以下,6.0以上 Ca 6.4mg/dL以下,15.0以上	1~3
1271		尿 2.0 冷	1	電極法	1.5~2.5 g/day			
1232	クロール (Cl)	血清 0.5 ※1 冷	2	電極法	96~109 mEq/L	11 生 I	24時間蓄尿し、全尿量を記録後必要量を提出してください	1~3
1272		尿 2.0 冷	1	電極法	6.0~12.0 g/day			
1233	カルシウム (Ca)	血清 0.5 冷	2	比色法 (酵素法)	8.7~11.0 mg/dL	11 生 I	24時間蓄尿し、全尿量を記録後必要量を提出してください	1~3
1273		尿 2.0 冷	1		0.10~0.30 g/day			
1236	イオン化カルシウム	流パラ 血清 0.9 冷	1	イオン電極法	2.25~2.50 mEq/L (4.5~5.0 mg/dL)	26 生 I	5mL真空採血後ゴム栓の上から注射針を刺し、流動パラフィン1mL注入してください 室内に30分放置後血清分離 血清と流動パラフィンを10mLチューブに移してください A	3~4
1234	無機リン (IP)	血清 0.5 ※1 冷	2	酵素法	2.5~4.5 mg/dL	17 生 I	24時間蓄尿し、全尿量を記録後必要量を提出してください	1~3
1274		尿 2.0 冷	1		0.5~2.0 g/day			
1237	マグネシウム (Mg)	血清 0.5 冷	2	比色法 (キシリジルブルー法)	1.7~2.6 mg/dL	11 生 I	24時間蓄尿し、全尿量を記録後必要量を提出してくださいA	2~3
1275		尿 1.0 冷	1		0.1~0.20 g/day			
1240	血清鉄 (Fe)	血清 0.5 冷	2	比色法 (Nitroso-PSAP法)	M: 70~200 $\mu$ g/dL F: 60~180 $\mu$ g/dL	11 生 I	血清鉄,UIBC,TIBCの同時3項目の所定点数を算定できません	1~3
1242	総鉄結合能 (TIBC)	血清 0.5 冷	2		290~355 $\mu$ g/dL	11 生 I		
1241	不飽和鉄結合能 (UIBC)	血清 0.5 冷	2		150~300 $\mu$ g/dL	11 生 I		
1243	銅 (Cu)	血清 0.5 冷	2	比色法 (3,5-DiBr-PAESA法)	66~130 $\mu$ g/dL	23 生 I	指定の容器で採取してください 指定容器以外で採取した場合、測定値が上昇する場合があります A	2~3
1284		尿 5.0 冷	1	原子吸光分光光度法	36 $\mu$ g/L 以下			
1244	亜鉛 (Zn)	血清 0.5 冷	1	原子吸光分光光度法	80~130 $\mu$ g/dL	132 生 I	指定の容器で採取してください 指定容器以外で採取した場合、測定値が上昇する場合があります A	3~4
1276		尿 0.5 冷	1		85~1,000 $\mu$ g/L			

67ページ参照

ナトリウム及びクロールについては、両方を測定した場合も、いずれか一方のみを測定した場合も、同一の所定点数により算定します。カルシウムとイオン化カルシウムを同時に測定した場合は、いずれか一方の点数を算定します。



## 生化学的検査(機能検査)

項目コード	検査項目	検体・必要量 (mLと保存)	容器	検査方法	基準値	実施料 区分	備考	報告 日数
<b>機能検査</b>								
1610	クレアチンクリアランス	血清 1.0 尿 3.0 冷	2 ・ 1	酵素法	70~130 mL/min		採取方法は22ページ参照	2~3
1612	尿素クリアランス	血清 1.0 尿 3.0 冷	2 ・ 1	酵素法 (ウレアーゼ UV法)	Cm62~77 mL/min		採取方法は22ページ参照	2~3
1615	24時間内因性 クレアチンクリアランス	血清 1.0 尿 3.0 冷	2 ・ 1	酵素法	M: 62~108 mL/min F: 57~78 mL/min		採取方法は22ページ参照	2~3
1614	尿酸クリアランス	血清 0.5 尿 3.0 冷	2 ・ 1	酵素法	7.8~11.0 mL/min		採取方法は22ページ参照	2~3
1650	フィッシュバーグ濃縮試験	尿 各 5.0 冷	1	比重計法	3回のうち少なくとも1回 の比重が1.025以上	100	採取方法は22ページ参照	1~3
1605	ICG試験 (インドサイアニン・グリーン試験)	血清 各 1.0 冷	2	比色法	停滞率 R 0~10 %	100	採取方法は22ページ参照	1~3
1670	PFD試験 (PABA排泄率)	尿 各 3.0 冷	1	比色法 (DACA法)	6時間排泄率 73.4~90.4 %	100	採取方法は22ページ参照	A 3~5
1680	アミラーゼ・クレアチンク リアランス比 (ACCR)	血清 0.5 尿 3.0 冷	2 ・ 1	酵素法	1.8~2.2 %		採取方法は21ページ参照	2~3

### アミノ酸分析 基準値

アミノ酸名	血漿nmol/mL	尿 μmol/gクレアチニン	アミノ酸名	血漿nmol/mL	尿 μmol/gクレアチニン	アミノ酸名	血漿nmol/mL	尿 μmol/gクレアチニン
Taurine	46.4~128.2	280~2000	Citrulline	17.9~48.0	2~41	Ethanolamine	TRA~10.5	190~530
Phosphoethanolamine	TRA	7~70	α-Amino-n-butyric acid	8.1~31.0	3~21	Hydroxylysine	ND	8 以下
Aspartic acid	TRA~7.2	TRA~12	Valine	156.2~360.4	23~66	Ornithine	42.6~141.2	TRA~35
Hydroxyproline	TRA~18.8	ND	Cystine	4.7~34.8	13~76	Tryptophan	36.2~79.3	22~110
Threonine	74.2~216.1	70~390	Methionine	15.5~38.6	11~58	Lysine	125.7~281.9	78~800
Serine	91.5~186.4	120~630	Cystathionine	ND	6~37	l-Methylhistidine	9.1 以下	25~2400
Asparagine	43.8~90.6	51~300	Isoleucine	37.0~100.4	13~46	Histidine	63.0~105.2	400~2000
Glutamic acid	12.2~82.7	3~29	Leucine	74.2~169.1	24~77	3-Methylhistidine	TRA~8.2	110~340
Glutamine	418.0~739.8	150~810	Tyrosine	38.4~89.4	49~230	Anserine	ND	ND
Sarcosine	TRA	ND	Phenylalanine	43.5~79.8	27~96	Carnosine	ND	4~74
α-Amino adipic acid	ND	5~52	β-Alanine	TRA~11.8	2~110	Arginine	31.8~149.5	8~71
Proline	71.3~373.0	ND	β-Amino-iso-butyric acid	5.9 以下	TRA~830	NH <sub>3</sub>	71.8~230.4	
Glycine	140.4~427.3	380~3600	Homocystine	ND	ND	フィッシャー比	2.2~4.3	
Alanine	258.8~615.2	89~560	γ-Amino-n-butyric acid	ND	ND	ND: 検出感度以下 TRA: 痕跡		

# 機能検査実施スケジュール

検査項目	実施方法
クレアチニンクリアランス 尿素クリアランス	<p>排尿後微温水 500mL飲む</p> <p>開始 ↓ 約60分 基点 0分 ↑ 完全排尿</p> <p>↑ B1 30分 3mL採血</p> <p>↑ H1 60分 完全採尿 3mL提出</p> <p>↑ B2 90分 3mL採血</p> <p>↑ H2点 120分 完全採尿 3mL提出</p> <p>各採取時点での時刻, 尿量を記載</p>
24時間内因性 クレアチニンクリアランス	<p>24時間蓄尿 午前6時</p> <p>↑ 完全排尿</p> <p>↑ (蓄尿)</p> <p>↑ 昼食前 3mL採血</p> <p>↑ (蓄尿)</p> <p>↑ 翌朝6時 (24時間) 最終採尿</p> <p>尿量記載 3mL提出</p>
尿酸クリアランス	<p>重曹1gを300mLの水とともに飲む</p> <p>開始 ↓</p> <p>↓ 約300mL飲む 30分</p> <p>↑ 起点 0分 完全排尿</p> <p>↑ B1 30分 3mL採血</p> <p>↑ H1 60分 完全採尿 3mL提出</p> <p>各採取時点での時刻, 尿量を記載</p>
フィッシュバーグ濃縮試験	<p>覚醒時</p> <p>0分 H1 ↑ 採尿 5mL提出</p> <p>1時間 H2 ↑ 採尿 5mL提出</p> <p>2時間 H3 ↑ 採尿 5mL提出</p>
ICG試験 停滞率 R	<p>ICG体重10kgにつき 1mL静注</p> <p>開始 ↑ B0 3mL採血</p> <p>↓ 0分</p> <p>↑ B1 5分 3mL採血</p> <p>↑ B2 10分 3mL採血</p> <p>↑ B3 15分 3mL採血</p> <p>RはB0,B3の二回採血提出 検体は遮光</p> <p>各採取時点での時刻を記載</p>
PFD試験	<p>試薬を水250mL以上とともに服用</p> <p>↓ 0分</p> <p>↑ 完全採尿 3.0mL提出</p> <p>↓ 水約250mL以上飲水 1時間</p> <p>↑ 6時間 蓄尿 3.0mL提出</p> <p>各採取時点での時刻, 尿量を記載</p>
アミラーゼクレアチニン クリアランス比	<p>早朝空腹時 排尿後水300mL飲む</p> <p>開始 ↓</p> <p>↑ 基点 0分 完全採尿 (飲水後60分)</p> <p>↑ B1 60分 3mL採血</p> <p>↑ H1 120分 完全採尿 3mL提出</p> <p>各採取時点での時刻, 尿量を記載</p>

# 生化学的検査(ホルモン 下垂体)

項目コード	検査項目	検体・必要量 (mL)と保存	容器	検査方法	基準値	実施料区分	備考	報告日数
<b>下垂体</b>								
2010	成長ホルモン (GH)	血清 0.5 冷	2	ECLIA法	M: 2.47 ng/mL 以下 (成人) F: 0.13~9.88 ng/mL (成人)	105 生II	負荷試験はインスリン, アルギニン, ブドウ糖等	2~4  A
2000	ソマトメジンC (SM-C)	血清 0.5 凍※	2 ↓ 1	ECLIA法	下欄参照	212 生II	採血後速やかに遠心分離凍結保存してください	3~4  A
		血漿 0.5 凍※	7 ↓ 1					
2020	プロラクチン (PRL)	血清 0.5 冷	2	CLIA法	M: 3.6~12.8 ng/mL F: 6.1~30.5 ng/mL	98 生II	負荷試験は合成TRH500 μgを静注する	2~4  A
2030	副腎皮質刺激ホルモン (ACTH)	血漿 0.4 凍※	7 ↓ 1	ECLIA法	7.2~63.3 pg/mL	184 生II	溶血は低値の影響があります速やかに冷却遠心後血漿分離凍結保存してください 負荷試験はメピロン等	3~4  A
3478	甲状腺刺激ホルモン (TSH)	血清 0.5 冷	2	CLIA法	0.350~4.94 μIU/mL	98 生II		B 3~6
2060	黄体形成ホルモン (LH)	血清 0.6 冷	2	CLIA法	F: 卵胞期 1.8~10.2 排卵期 2.2~88.3 黄体期 1.1~14.2 閉経後 5.7~64.3 M: 0.8~5.7 mIU/mL	105 生II	負荷試験は合成LH-RH100 μgを静注する	2~4  A
2070	卵胞刺激ホルモン (FSH)	血清 0.5 冷	2	CLIA法	F: 卵胞期 3.0~14.7 排卵期 3.2~16.6 黄体期 1.5~8.5 閉経後 157.8 以下 M: 2.0~8.3 mIU/mL	105 生II	負荷試験は合成LH-RH100 μgを静注する	2~4  A

※ 前日までにお問合わせください。

●ソマトメジンC(SM-C) 基準値

67ページ参照

男性						女性					
年齢	-2SD~+2SD	年齢	-2SD~+2SD	年齢	-2SD~+2SD	年齢	-2SD~+2SD	年齢	-2SD~+2SD	年齢	-2SD~+2SD
0	11~149	26	119~329	52	86~242	0	15~154	26	146~336	52	78~213
1	14~148	27	116~322	53	85~240	1	23~186	27	141~328	53	77~212
2	18~154	28	114~315	54	84~239	2	32~213	28	137~320	54	76~211
3	24~164	29	111~309	55	84~238	3	40~227	29	133~312	55	75~210
4	32~176	30	109~303	56	83~237	4	48~238	30	129~304	56	74~208
5	44~193	31	107~297	57	82~236	5	56~252	31	126~297	57	73~207
6	55~215	32	105~292	58	81~235	6	69~287	32	122~290	58	72~205
7	63~247	33	103~287	59	80~233	7	89~357	33	119~283	59	71~203
8	72~292	34	102~283	60	79~232	8	111~438	34	115~277	60	70~201
9	84~350	35	100~279	61	77~230	9	133~517	35	112~271	61	69~198
10	99~423	36	99~275	62	76~228	10	155~588	36	109~265	62	68~196
11	113~499	37	97~272	63	75~226	11	175~638	37	106~260	63	66~194
12	125~557	38	96~269	64	73~224	12	188~654	38	103~254	64	65~191
13	133~579	39	95~266	65	72~221	13	193~643	39	100~250	65	64~188
14	138~570	40	94~263	66	70~219	14	193~625	40	98~245	66	62~186
15	141~552	41	94~261	67	68~216	15	192~614	41	95~240	67	61~183
16	142~543	42	93~259	68	66~213	16	192~611	42	93~236	68	60~180
17	142~540	43	92~257	69	65~209	17	191~599	43	90~233	69	59~177
18	142~526	44	92~255	70	63~206	18	188~574	44	88~229	70	57~175
19	143~501	45	91~253	71	61~202	19	182~539	45	87~226	71	56~172
20	142~470	46	90~250	72	58~198	20	175~499	46	85~224	72	55~170
21	139~436	47	90~250	73	56~194	21	168~459	47	83~221	73	54~167
22	135~405	48	89~248	74	54~190	22	161~425	48	82~219	74	53~165
23	131~379	49	88~246	75	52~185	23	155~397	49	81~218	75	52~163
24	158~356	50	87~245	76	50~181	24	151~375	50	80~216	76	50~160
25	125~337	51	87~243	77	48~177	25	147~358	51	79~215	77	49~158

(単位: ng/mL)

## 生化学的検査(ホルモン 甲状腺・副甲状腺)

項目コード	検査項目	検体・必要量(mL)と保存	容器	検査方法	基準値	実施料区分	備考	報告日数
<b>甲状腺</b>								
2100	T <sub>3</sub> (トリヨードサイロニン)	血清 0.5 冷	2	ECLIA法	80~160 ng/dL	99 生II	A	2~4
2121	T <sub>4</sub> (サイロキシン)	血清 0.5 冷	2	ECLIA法	6.1~12.4 μg/dL	105 生II	A	2~4
3479	F-T <sub>4</sub> (遊離サイロキシン)	血清 0.4 冷	2	CLIA法	0.7~1.48 ng/dL	121 生II	B	3~6
3480	F-T <sub>3</sub> (遊離トリヨードサイロニン)	血清 0.4 冷	2	CLIA法	1.68~3.67 pg/mL	121 生II	B	3~6
2140	サイロキシン結合グロブリン (TBG)	血清 0.3 凍	2	CLEIA法	14.0~31.0 μg/mL	130 生II	A	5~8
2141	サイログロブリン (Tg)	血清 0.4 冷	2	ECLIA法	33.70 ng/mL 以下	128 生II	A	3~4
2142	抗サイログロブリン抗体 (TgAb)	血清 0.5 冷	2	ECLIA法	28.0 IU/mL 未満	136 免	A	2~4
<b>副甲状腺</b>								
2344	PTH-INTACT 副甲状腺ホルモン-INTACT)	血清 0.5 凍※	2 ↓ 1	ECLIA法	10~65 pg/mL	161 生II	A	3~4
2420	カルシトニン	血清 0.5 凍※	2 ↓ 1	ECLIA法	M: 5.15 pg/mL 以下 F: 3.91 pg/mL 以下	130 生II	採血後速やかに冷却遠心、 血清分離し凍結保存してくだ さい A	3~4

※ 前日までにお問合わせください。

67ページ参照

## 生化学的検査(ホルモン 副腎皮質・副腎髄質)

項目コード	検査項目	検体・必要量 (mL)と保存	容器	検査方法	基準値	実施料区分	備考	報告日数
<b>副腎皮質・副腎髄質</b>								
2160	コルチゾール	血清 0.5 冷	2	CLIA法	AM 8時～10時 4.5～21.1 $\mu\text{g/dL}$	121 生Ⅱ	原則としてAM 8～10時に採血してください A	2～4
2164		尿 1.0 冷	1	CLIA法	4.3～176.0 $\mu\text{g/day}$	121 生Ⅱ	非抱合型コルチゾールを測定しています 24時間蓄尿し、全尿量を記録後必要量を提出してください A	3～4
2190	11-OHCS	血清 2.1 冷	2	蛍光法 (De Moore 臼井変法)	AM 8時～10時 5.0～21.4 $\mu\text{g/dL}$	60 生Ⅱ	原則としてAM 8～10時に採血し、速やかに遠心後血清分離、冷蔵してください A	4～10
2150	レニン活性 (PRA)	血漿 0.7 凍※	7 ↓ 1	EIA法	臥位 0.2～2.3 ng/mL/hr 座位 0.2～3.9 ng/mL/hr 立位 0.2～4.1 ng/mL/hr	100 生Ⅱ	早期安静状態で採血し、速やかに冷却遠心後血漿分離、凍結してください 溶血検体では、測定値が低下傾向となる場合があります <b>ヘパリン血漿不可</b> ☆レニン活性精密測定と定量を同時に測定した場合は、一方のみ算定します A	3～4
2154	活性型レニン定量 (ARC)	血漿 0.5 凍※	7 ↓ 1	CLEIA法	2.21～39.49 pg/mL	102 生Ⅱ	早期15分以上座位にて安静後、指定の容器に採血してください。十分混和し速やかに遠心、血漿分離してください ☆レニン活性精密測定と定量を同時に測定した場合は、一方のみ算定します A	3～4
2250	アルドステロン	血漿 0.5 凍※	7 ↓ 1	CLEIA法	4.0～82.1 pg/mL	122 生Ⅱ	早期安静状態で採血し、速やかに冷却遠心後血漿分離、凍結してください A	3～4
2254		尿 1.0 凍※	1		1.0～19.3 $\mu\text{g/day}$		添加剤無しで24時間蓄尿し、尿量測定後、速やかに必要量を凍結して提出してください ご依頼時に尿量をご記入ください A	4～6
2425	セロトニン	血液 1.1 凍※	20	HPLC法	81.0～262.0 ng/mL		EDTA入りプラスチック容器に採血し、全血のまま凍結してください A	6～12
2430	5-ヒドロキシインドール酢酸 (5-HIAA)	酸性尿 1.0 冷	1	LC-MS/MS法	0.5～5.0 mg/day	95 生Ⅱ	6N塩酸20mL入り容器に24時間蓄尿し、全尿量を記録後必要量を提出してください pH3.0以下に保持してください 尿量の少ない場合は100mLに対し6N塩酸1.5mLの割合で入れてください A	4～5

※ 前日までにお問合わせください。

67ページ参照

## 生化学的検査(ホルモン 副腎髄質, 膵・消化器)

項目コード	検査項目	検体・必要量 (mL)と保存	容器	検査方法	基準値	実施料区分	備考	報告日数
<b>副腎髄質</b>								
2280	カテコールアミン3分画	血漿 1.1 凍※	7 ↓ 1	HPLC法	アドレナリン(エピネフィリン) 0.10 ng/mL 以下 ノルアドレナリン(ノルエピネフィリン) 0.10~0.50 ng/mL ドーパミン 0.03 ng/mL 以下	161 生 II	安静臥位状態で採血し、速やかに冷却遠心後血漿分離、凍結してください	4~5
2290		尿 1.0 冷	1	HPLC法	アドレナリン(エピネフィリン) 3.0~41.0 μg/day ノルアドレナリン(ノルエピネフィリン) 31.0~160.0 μg/day ドーパミン 280.0~1100.0 μg/day	161 生 II	6N塩酸20mL入り容器に24時間蓄尿し、全尿量を記録後必要量を提出してください	
2300	メタネフリン分画	酸性尿 2.0 冷	1	LC-MS/MS法	メタネフリン 0.04~0.18 mg/day ノルメタネフリン 0.10~0.28 mg/day	220 生 II	6N塩酸20mL入り容器に24時間蓄尿し、全尿量を記録後必要量を提出してください	5~6
2311	VMA (バニールマンデル酸)	酸性尿 2.0 冷	1	LC-MS/MS法	蓄尿 1.50~4.90 mg/day 随時尿 2.10~5.00 mg/g・cre	90 生 II	6N塩酸20mL入り容器に24時間蓄尿し、全尿量を記録後必要量を提出してください	4~5
2315	HVA (ホモバニリン酸)	酸性尿 2.0 冷	1	LC-MS/MS法	蓄尿 2.40~6.00 mg/day 随時尿 2.20~5.80 mg/g・cre	69 生 II	6N塩酸20mL入り容器に24時間蓄尿し、全尿量を記録後必要量を提出してください	4~5
<b>膵・消化器</b>								
3471	インスリン (IRI)	血清 0.3 冷	2	CLIA法	1.7~10.4 μU/mL (空腹時負荷前)	100 生 II	溶血は低値の影響があります <sub>B</sub>	3~4
2326	インスリン抗体	血清 0.5 冷	2	RIA法	濃度 0.4 U/mL 未満	107 免		5~8
1860	C-ペプチド (CPR)	血清 0.5 冷	2	ECLIA法	0.8~2.5 ng/mL	105 生 II	血液と尿を同時測定した場合、何れか一方のみ算定する 蓄尿は冷所で行い、予め蓄尿容器にI-XB53尿-Cペプチド安定化剤を入れ蓄尿し、蓄尿量を記録し必要量を凍結してご提出ください なお、I-XB53尿-Cペプチド安定化剤を使用した検体は他項目に影響を与えることから他項目との共用依頼は避けてください	3~4
1872		尿 1.0 凍※	1		22.8~155.2 μg/day			
2429	ペプシノゲンセット (PG I・II)	血清 0.5 冷	2	ラテックス凝集法	強陽性 30.0 ng/mL以下かつ2.0以下 陽性 70.0 ng/mL以下かつ3.0以下 弱陽性 40.0 ng/mL以下かつ2.5以下			1~3

※ 前日までにお問合わせください。

67ページ参照

## 生化学的検査(ホルモン 性腺)

項目コード	検査項目	検体・必要量 (mL)と保存	容器	検査方法	基準値	実施料区分	備考	報告日数
<b>性腺</b>								
2362	エストラジオール (E <sub>2</sub> )	血清 0.7 冷	2	CLIA法	M: 19.0~51.0 F: 卵胞期 19.0~226.0 排卵期 49.0~487.0 黄体期 78.0~252.0 閉経期 39.0 以下 妊娠中 前期 780.0~16,631.0 中期 1,146.0~36,635.0 後期 5,452.0~44,915.0 pg/mL	167 生 II	A	2~4
2375	プロゲステロン (黄体ホルモン)	血清 0.5 冷	2	CLIA法	M: 0.6 以下 F: 卵胞期 0.4 以下 排卵期 3.7 以下 黄体期 8.5~21.9 妊娠中 前期 23.9~141.4 中期 25.7~142.9 後期 51.2~325.8 ng/mL	143 生 II	A	2~4
2380	HCG定量 (ヒト絨毛性ゴナドトロピン定量)	血清 0.6 冷	2	ECLIA法	M: 3.0以下 F: 非妊婦 3.0以下 妊娠 1週 0~50 2週 20~500 3週 500~5,000 4週 3,000~19,000 2ヶ月 14,000~169,000 3ヶ月 16,000~160,000 6ヶ月 2,500~82,000 9ヶ月 2,400~50,000 mIU/mL	130 生 II	A	3~5
2396		尿 2.0 冷	1	ECLIA法	M: 3.0以下 F: 非妊婦 3.0以下 妊娠 6週 15,000~30,000 10週 90,000~120,000 20週 未設定 40週 未設定 mIU/mL	130 生 II	A	
2386	HCG β サブユニット	血清 0.5 冷	2	CLIA法	0.28 ng/mL 以下	129 生 II	A	3~5
2350	テストステロン	血清 0.7 冷	2	CLIA法	M: 142.4~923.1 ng/dL F: 10.8~56.9 ng/dL	119 生 II	A	2~4

67ページ参照

## 生化学的検査(ホルモン その他 ビタミン)

項目コード	検査項目	検体・必要量 (mL)と保存	容器	検査方法	基準値	実施料区分	備考	報告日数
<b>その他</b>								
2632	BNP (脳性ナトリウム利尿ペプチド)	血液 2.0 (EDTA2Na加血) 冷	7	CLIA法	18.4 pg/mL 以下	130 生 II	採血後、測定まで24時間以内であれば全血は冷蔵保存のままご提出は可能ですが、24時間を超える場合は血漿分離後、凍結保存にて提出してください A	3~4
2633		血漿 0.5 凍※	7 ↓ 1					
2641	NT-pro BNP (ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体N端フラグメント)	血清 0.5 冷	2	ECLIA法	125 pg/mL 以下	136 生 II		3~4
		又は 血漿 0.5 冷	7 ↓ 1					
2634	HANP (心房性ナトリウム利尿ペプチド) (ANP) (α-ANP)	血漿 0.5 凍※	7 ↓ 1	CLEIA法	43.0 pg/mL 以下	221 生 II	採血後速やかに血漿分離し凍結保存してください 溶血の場合は低値となります A	3~4
2635	エリスロポエチン (EPO)	血清 0.7 冷	2	CLEIA法	4.2~23.7 mIU/mL	209 生 II	A	3~4
<b>ビタミン</b>								
2505	ビタミンA	血清 0.3 凍※	2 ↓ 1	HPLC法	27.2~102.7 μg/dL		遮光保存 A	5~11
2510	ビタミンB <sub>1</sub> (チアミン)	血液 1.1 凍※	19	HPLC法	21.3~81.9 ng/mL	239 生 I	専用のプラスチック容器で全血のまま凍結してください 遮光保存 A	7~9
2516	ビタミンB <sub>2</sub> (リボフラビン)	血漿 1.1 凍※	9 ↓ 1	蛍光法 (ルミフラビン 蛍光法)	1.7~4.6 μg/dL	235 生 I	遠心分離後、上清を必ずプラスチック容器で凍結してください 遮光保存 A	4~8
		血清 1.1 凍※	2 ↓ 1					
2520	ビタミンB <sub>6</sub>	血清 1.0 冷・凍※	2 ↓ 1	HPLC法	M PAM 0.6以下 0.6以下 PAL 6.0~40.0 4.0~19.0 PIN 3.0以下 3.0以下 ng/mL		遮光保存 A	4~10
2525	ビタミンB <sub>12</sub> (シアノコバラミン)	血清 0.6 冷	1	CLIA法	233~914 pg/mL	136 生 I	A	2~4
2530	ビタミンC (アスコルビン酸)	血清 0.7 凍※	1 ↓ 1	HPLC法	4.7~17.8 μg/mL	296 生 I	遮光保存 単独検体 絶対凍結 シュウ酸に水化物1mgを入れた汎用スピッツ(容器番号1)に血液8mLを入れ、速やかに混和後遠心分離を行い、血清を分注して遮光凍結保存し提出してください A	4~10
2535	葉酸	血清 0.7 冷	2	CLIA法	3.6~12.9 ng/mL	146 生 I	溶血は高値の影響があります A	2~4

※ 前日までにお問合わせください。

67ページ参照



## 生化学的検査(薬剤)

項目コード	検査項目	検体・必要量(mL)と保存	容器	検査方法	基準値	実施料区分	備考	報告日数
<b>薬剤</b>								
2701	ジゴキシシン	血清 0.5 冷	2	ラテックス凝集比濁法	治療有効濃度 0.8~2.0ng/mL 中毒濃度 2.5 ng/mL 以上	* 1	販売名 ジゴキシシン、ジゴシン、11-7ジゴキシシン 一部のジギタリス剤と交叉反応を示します A	2~3
2715	フェニトイン (フェニトイン、フェニトインナトリウム)	血清 0.5 冷	2	ラテックス凝集比濁法	治療有効濃度 トラフ値 10.0~20.0 μg/mL 小児 8.0~15.0 μg/mL 新生児	* 1	販売名 複合アレピアチン、ヒダントール、アレピアチン A	2~3
2720	フェノバルビタール (フェノバルビタール、フェノバルビタールナトリウム)	血清 0.5 冷	2	ラテックス凝集比濁法	治療有効濃度 トラフ値 10.0~40.0 μg/mL	* 1	販売名 複合アレピアチン、ヒダントール、フェノバルビタール A	2~3
2725	プリミドン	血清 0.5 冷	2	EIA法	治療有効濃度 5.0~12.0 μg/mL	* 1	販売名 プリミドン A	2~3
2730	カルバマゼピン	血清 0.5 冷	2	ラテックス凝集比濁法	治療有効濃度 4.0~12.0 μg/mL 他の抗てんかん薬併用 4.0~8.0 μg/mL	* 1	販売名 テグレトール、カルバマゼピン A	2~3
2735	バルプロ酸 (バルプロ酸ナトリウム)	血清 0.5 冷	2	ラテックス凝集比濁法	治療有効濃度 50~100 μg/mL	* 1	販売名 デバケン、セレニカ、バルプロ酸ナトリウム A	2~3
2710	エトスクシミド	血清 0.5 冷	2	EIA法	治療有効濃度 40.0~100.0 μg/mL	* 1	販売名 エピレオプチマル、ザロンチン A	3~9
2743	ニトラゼパム	血清 0.3 凍※	2 ↓ 1	LC-MS/MS法	治療有効濃度 20.0~100.0 ng/mL	* 1	販売名 ベンザリン、ネルボン、ニトラゼパム A	4~5
2745	サリチル酸 (アスピリン、アセチルサリチル酸)	血清 0.5 冷	2	酵素法	治療有効濃度 150~300 μg/mL 中毒濃度 300 μg/mL 以上	* 1	販売名 アスピリン A	3~5
2741	ハロペリドール (ハロペリドール、ハロペリドールデカン酸エステル)	血清 0.5 冷	2	金コロイド凝集法	治療有効濃度 3.0~17.0 ng/mL	* 1	販売名 ハロステン、セレネース、ハロペリドール A	2~3
2740	プロカインアミド (プロカインアミド塩酸塩)	血清 0.5 冷	2	EIA法	治療有効濃度 4.00~8.00 μg/mL 中毒濃度 12.00 μg/mL 以上	* 1	販売名 アミサリン A	3~5

※ 前日までにお問合わせください。

\* 1は特定薬剤治療管理料

## 生化学的検査(薬剤)

項目コード	検査項目	検体・必要量 (mL)と保存	容器	検査方法	基準値	実施料区分	備考	報告日数
<b>薬剤</b>								
2742	プロプラノロール (プロプラノール塩酸塩)	血清 0.3 冷	2 ↓ 1	HPLC法	治療有効濃度 50.0~100.0 ng/mL	* 1	販売名 インデラルプロプラノロール  A	7~20
		血漿 0.3 冷						
2746	リドカイン (リドカイン塩酸塩)	血清 0.5 冷	2	EIA法	治療有効濃度 1.5~5.0 μg/mL 中毒濃度 9.0 μg/mL 以上	* 1	販売名 静注用キシロカイン、リドカイン  A	3~9
2744	ピルシカイニド (ピルシカイニド塩酸塩水和物)	血漿 0.3 凍※	9 ↓ 1	LC-MS/MS法	治療有効濃度 0.20~0.90 μg/mL	* 1	販売名 サンリズム、ピルシカイニド  感受性に対する個体差が大きい ため、有効血中濃度はあくまでも 目安です  A	4~6
		血清 0.3 凍※						
2755	メトレキサート	血清 0.5 冷	2	EIA法	中毒域(大量投薬時) 24時間後 10.00 μmol/L 以上 48時間後 1.00 μmol/L 以上 72時間後 0.10 μmol/L 以上	* 1	販売名 メソトレキセート  A	3~4
2750	テオフィリン (テオフィリン、アミノフィリン 水和物)	血清 0.5 冷	2	ラテックス凝 集比濁法	治療有効濃度 成人 5.0~15.0 μg/mL 乳児 5.0~10.0 μg/mL  中毒濃度 25.0 μg/mL 以上	* 1	薬剤名 アミノフィリン、キョーフィリン、ネオ フィリン、テオドール、テオロング、 ユニコン、ユニフィル、アブニショ ン、テオフィリン  A	2~3
2770	シクロスポリン	血液 0.5 凍※	20	CLIA法	ng/mL	* 1	全血のまま凍結 ヘパリンは不可 販売名 サンディミュン、ネオーラル、シクロ スポリン  A	3~4
2700	リチウム (Li) (炭酸リチウム)	血清 0.5 冷	2	原子吸光分光 光度法	治療有効濃度 0.60~1.20 mEq/L 中毒濃度 2.00 mEq/L 以上	* 1	販売名 リーマス、炭酸リチウム  A	3~4

※ 前日までにお問合わせください。

\* 1は特定薬剤治療管理料

## 生化学的検査(産業医学検査)

項目コード	検査項目	検体・必要量 (mL)と保存	容器	検査方法	基準値	実施料区分	備考	報告日数	
<b>産業医学検査</b>									
2910	馬尿酸 (トルエンの代謝物として)	尿 1.0 冷	1	HPLC法	下記参照			4~5	
2911	メチル馬尿酸分画 (キシレンの代謝物として)	尿 1.0 冷	1	HPLC法	下記参照			4~5	
2912	マンデル酸 (エチルベンゼンの代謝物として)	尿 1.0 冷	1	LC-MS法	下記参照			5~8	
2915	2,5-ヘキサンジオン (ノルマルヘキサンの代謝物として)	尿 3.0 冷	1	GC-MS法	下記参照			5~8	
2913	N-メチルホルムアミド (N,N-ジメチルホルムアミドの代謝物として)	尿 3.0 冷	1	GC法	下記参照			5~8	
2916	総三塩化物 1,1,1-トリクロロエタン 代謝物	尿 1.0 冷	1	GC法	下記参照		連続した作業日の後半の作業日、作業終了時の2時間前に一度排尿した後、終了時に採尿してください	4~7	
2917									トリクロロエチレン代謝物
2918									テトラクロロエチレン代謝物
2920	トリクロロ酢酸 1,1,1-トリクロロエタン 代謝物	尿 1.0 冷	1	GC法	下記参照			A	4~7
2921									
2922							テトラクロロエチレン代謝物		

### 有機溶剤健康診断及び鉛健康診断の検査項目

項目コード	検査項目	検体・必要量 (mL)と保存	容器	検査方法	基準値	実施料区分	分布※1				報告日数
							1	2	3		
2650	血中鉛(Pb)	血液 0.5 冷	9	原子吸光分光光度法	μg/dL		20 以下	20 超 40 以下	40 超	A	4~8
5636	尿中デルタアミノレブリン酸定量(δ-ALA定量)	尿 1.0 冷	1	HPLC法	mg/L	109	5 以下	5 超 10 以下	10 超	A	4~6
1905	赤血球遊離プロトポルフィリン(FEP)	血液 1.4 冷・遮光 (ヘパリン加血)	9	蛍光法	μg/dL 赤血球		100 以下	100 超 250 以下	250 超	A	4~17

尿中の代謝物の測定が必要な有機溶剤名

依頼コードNo.	有機溶剤の名称	検査項目	単位	分布※1		
				1	2	3
2910	トルエン	尿中の馬尿酸	g/l	1 以下	1 超 2.5 以下	2.5 超
2911	キシレン	尿中のメチル馬尿酸	g/l	0.5 以下	0.5 超 1.5 以下	1.5 超
2912	スチレン	尿中のマンデル酸	g/l	0.3 以下	0.3 超 1 以下	1 超
2915	ノルマルヘキサン	尿中の2,5-ヘキサンジオン	mg/l	2 以下	2 超 5 以下	5 超
2913	N,N-ジメチルホルムアミド	尿中のN-メチルホルムアミド	mg/l	10 以下	10 超 40 以下	40 超
2920	1,1,1-トリクロロエタン	尿中のトリクロロ酢酸	mg/l	3 以下	3 超 10 以下	10 超
2916						
2921	トリクロロエチレン	尿中のトリクロロ酢酸	mg/l	30 以下	30 超 100 以下	100 超
2917						
2922	テトラクロロエチレン	尿中のトリクロロ酢酸	mg/l	3 以下	3 超 10 以下	10 超
2918						

※1 分布1, 2, 3, と分けている数値は、厚生労働省がこの分布の属する人数を行政的に把握するために設定したものであって、結果を判定する基準となるものではありません。したがってこの数値で診断したり判定したりはしないこととされています。

※2 クロル炭化水素に係る尿中代謝産物の検査については、検査項目が同一であるので、これらの有機溶剤を2種以上使用している場合は、検査結果の評価については考慮する必要があります。